* * * *

北海道産フクジュソウについて，胚珠を用いて染色体数を観察した。この結果，北海道産フクジュソウの染色体数には，2n=16 と 2n=32 の2種類の数があることがわかった。更に 2n=16 のフクジュソウと 2n=32 のフクジュソウは，地理的分布を異にする。前者は，道北及び道東すなわちオホーツク側から太平洋側，十勝，釧路，根室地方にかけて主に分布し，後者は，残りの中央及び南西北海道に分布する他，少数のものが，太平洋沿いに，十勝そして釧路地方の内部まで及んでいる。

染色体数の異なるフクジュソウについて，次の外部形態的特徴，すなわち，1) 葉，気孔，及び表皮細胞の大きさ，2) 葉の毛の程度，3) 茎当りの着花数，4) 萼片の長さと花弁の長さの比，及び 5) 果時の花柱の湾曲度について調べた。その結果，2n=16 植物と，2n=32 植物の間にあらわれた最も顕著な差は，1) と 2) である。1) では 2n=32 植物が，いずれも，2n=16 植物より大きい。このことは，一般に倍数性を示す同種間の植物の間にみられる関係と一致する。2) では，2n=16 植物は，葉の下面に密に毛を生ずるが，2n=32 植物は，無毛または，それに近い。

これまで，我国のフクジュソウの染色体数は，n=12, n=20, 2n=24 と報告されているが，Gorovoy らによれば，大陸のフクジュソウ (=*A. amurensis*) は 2n=16 であるという。染色体数から判断すれば，北海道産のフクジュソウは大陸の *A. amurensis* 型で，Gorovoy らが分けた日本のフクジュソウ (=*A. ramosa* Franch.) と異なる様であるが，著者らはこの区分にまだ確信をもっていない。

最後に著者らは1922年，工藤博士の北海道薬用植物図彙に載っている *A. amurensis* var. *yezoensis* Kudo は，いわゆる，*A. ramosa* Franch. に相当し，本田博士の *A. amurensis* var. *puberula* Honda (キタミフクジュソウ) は，本研究で区別された 2n=16 のフクジュソウそのものであると結論した。

本報告をまとめるに際し，有益な助言と教示を与えられた原寛先生に，心から御礼申し上げます。

□Helmut Bechtel: **Orchideen** 180pp. 内 22-179 が plates. Bertelsmann Lexikon Verlag (Berlin), ¥12,800, (1977). ドイツで出版されたランの花の写真集。全体をアメリカ熱帯圏，アフリカ熱帯圏，インド一濠州熱帯圏としてまとめて，美しい花，変つた花など，大体75属を展開したものである。何しろ大きいのは 24 cm 一杯の図面に拡げてあり，撮影と印刷が共によいので，細かな蕊柱の曲り方や光り方などもよく分かるのがよい。適当な長さの記事も少しついている。*Masdevallia attenuata*, *Bonatea antennifera*, *Paphiopedilum randsii*, *Mediocalcar erectum*, ニオイラン (台湾) など見慣れぬ姿もあって楽しい。 (前川文夫)